

2023年10月20日

2022年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 NPO 法人かながわ311ネットワーク
代表者・役職名 氏名 代表理事 伊藤朋子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

児童生徒の防災教育の推進

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011年当時、神奈川県が行っていた東日本大震災の被災地支援活動に参加していたボランティアで、2013年3月に県の事業が終了したことをきっかけに2013年5月に任意団体として発足し、2013年10月にNPO法人化しました。会員数は正会員20人、賛助会員150人、メールマガジン登録1500人程度です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

2011年東日本大震災以降、学校に求められる危機管理・安全管理の内容は多岐にわたり、その質や目的が変化してきました。当団体は2015年から学校での防災教育の推進に取り組んできました。防災教育の必要性を感じつつも、なかなか取り組めない原因の一つに、予算がないことが挙げられます。学校の負担なく防災教育を実施できるようにするために、本助成金を申請しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

1. 防災教育の導入支援

メールや電話による相談を受け付けます。目的に適した教材(DIG、逃げ地図、HUG、クロスロード)のご紹介や避難訓練等に関するアドバイスを行います。

2. 防災教育の実施

学校等に出向き児童生徒向けの出前授業や職員研修、訓練へのアドバイス等を行います。出前授業が単発のイベントで終わらないよう、事後のフォローをします。

3. 防災教育に関する総合ウェブサイトの運営

当団体が考案した「かながわ版防災教育プログラム」の詳細について、先生方がすぐに取り組めるよう指導案も公開しています。

4. 防災教育フォーラム開催

私たちが関りのある学校の先生方による、各学校での防災教育の取り組みについて発表と講演会やパネルディスカッションを行います。他行の取り組みを知ることで、自身の取り組みのヒントを得ることができますし、同じ思いを持った同士がいることが防災教育を継続する支えになります。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

防災教育の実施数は16件、参加者数は641人、参加対象は小学生、中学生、教員、学童職員、保護者、地域の方等でした。学童からの依頼が増えたことで、小学校低学年を対象とした講話の機会が増えました。防災教育フォーラムはオンライン配信の形で実施し、発表者は配信会場またはオンラインで8団体が事例発表してくれました。全国各地から50人が参加し、発表へのコメントをくれたり、子どもたちと参加者の交流を持つことができました。

とくに学童からは「費用負担が少なかったことで、講師を依頼することができ、訓練の質を向上ことができました。」との声をたくさんいただき、実際にまち歩きにでかけたり、防災リーフレットや防災すごろく・カードゲーム等を作成したりと学んだことを地域の人に伝えるための取り組みにまで発展しました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

コロナ禍は開けたものの、その影響はまだ残っていると感じています。コロナ過で止めてしまったイベントを再開させることが難しくなっていたり、規模を小さくしないと行けなかったりと、外部講師を呼ぶことへのハードルはまだ残っているように感じます。その部分では、本プロジェクトは「費用負担」というハードルが低くなるため、とても喜んでいただけました。とくに学童では、外部講師を呼ぶための予算がほとんどなく、防災という専門知識が必要な分野においては、必要な予算だと思います。今後も本プロジェクトを活用し、より多くの学校で実施していきたいと思えます。

一方で、学校での取り組みは、担当の先生や担任の先生の熱意で実施に結び付くことも多く、継続的な取り組みになっていないことが課題です。できるだけ学校全体の取り組みとなるよう、仕組みづくりにも並行して取り組んでいきたいです。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

活動写真

<p>放課後キッズクラブ 避難訓練</p>	<p>放課後キッズクラブ 防災教室 (非常持ち出し袋に必要と思うものを詰めている様子)</p>
	